



さいばい ニュース

公益財団法人
神奈川県栽培漁業協会

発行所 〒238-0237
神奈川県三浦市三崎町
城ヶ島養老子
☎ 046(882)6980
FAX 046(881)2233
http://www.kanagawa-sfa.or.jp

No.105

新年あけましておめでとうございます。
昨年中は、神奈川県栽培漁業協会の事業に対して皆様のご理解と多大なご支援頂き、御礼申し上げます。
今年も、二千四百二十五年に発生した黒潮の大蛇行が十二年ぶりに発生



新年のご挨拶

公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会
理事長 **太田 議**

し、神奈川県沿岸の海環境が大きく変化しています。
この黒潮の大蛇行はいつまで続くか予想できないようですが、沿岸の漁業に大きな影響をもたらしています。
シラス漁業が近年になく不漁で、いろいろな魚種で平年の漁期からずれて生じているようです。キンメダイ漁業では潮が速くて縄が立たないそうです。
また、海藻とくにワカ

メ、ノリの発芽期に高水温の海水が来ることで芽落ちが心配されています。
さらに、三浦半島の磯根では、アイゴによるカジメ・アラメの食害で磯焼けが続き、アワビ・サザエなどの資源に深刻な事態を生じさせています。
磯焼け地域の藻場を回復する事業の展開を本腰でやる必要があります。

昨年前半、豊漁でしたので、種苗の放流効果と資源管理の効果が表れているとみています。引き続き、今年度の漁にも期待したいと思っています。
栽培漁業協会では、この様な環境の中で、マダイ、ヒラメ、クロダイ、

全国的にも全長六から八cmの種苗を継続して放流している県は多くありません。
昭和四十年代には神奈川県のみで、マダイの漁獲量は三十トン台になってしまいました。
昭和四十九年度から百万尾前後の種苗

を放流し始めて、年平均八十八万尾を放流して、漁業と遊漁を合わせて百万トンから百五十万トン、漁業で平均四十四トン、遊漁で七十八トン、種苗の回収率は、放流尾数に対して十・五から二・三%、平均五・三%であり、遊漁で年平均十六トン、漁業で九トンを回収しています。
今では、二十五トンのマダイの捕獲量(漁業+遊漁)は当たり前になっていますが、国や県の補助金がなくなると放流経費は受益者負担となつています。平成二十五年から平成二十九年度まで、東京湾へ一般社団法人日本釣用品工業会に二十万尾のマダイを購入していた

いて放流していましたが、この事業が縮小、或いはなくなることがあり、今後、五十万尾前後の放流数になる可能性があります。
これから、マダイ釣人協力金や釣船協力金、栽培漁業協会の種苗放流事業の範囲で事業を行っていく必要があります。
今まで、三浦市小網代湾で行ってきた中間育成をやめて、活魚運搬船で東京湾から相模湾への一括放流をしてきたものを陸上池で五cmから六cmに育て、トラック活魚車で運搬し、漁港へ直接放流することによって経費を削減できるか検討していきたいと考えています。

全国的においしさを運びます
タムラ運輸サービス株式会社
代表取締役 **田村 琢馬**
本社 〒239-0831
横須賀市久保浜一丁目10番1号
TEL 046-813-4100(代)
FAX 046-813-4155
■長井営業所
〒239-0316
横須賀市長井五丁目四七
TEL 046-815-7464
FAX 046-815-7464

マダイは日本においては魚の王様です。姿、色、味はお祝いに相応しいことから、根強い人気のある魚です。
しかし、天然のマダイの幼稚仔が生育する沿岸のアマモ場や浅場が高度経済成長時代に埋め立て

により喪失し、その結果、マダイの漁獲量が激減しました。
神奈川県では、昭和四十八年から昭和六十一年度まで神奈川県水産試験場の、種苗量産技術開発を経て百万尾の種苗を生産できるようになり、本

格的な種苗放流事業が始まるようになりました。
栽培漁業協会は、水産試験場の種苗生産事業を昭和六十二年度から引き継ぎ、七十万から百万尾の種苗を東京湾と相模湾に放流してきました。

カサゴ、メバル、カワハギ、アワビ、トコブシを漁業協同組合や水産関係団体、遊漁関係団体のご要望に沿って、種苗を放流、斡旋して、水産資源の増大に寄与していただきます。
種苗の放流で、漁業者・遊漁案内業者の経営が安定していくことを期待しています。

是非、漁業者、遊漁案内業者として多くの県民の皆様方で、栽培漁業が続いていけるよう、ご理解とご協力・ご支援をお願いいたします。
今年も皆様方のご健勝と大漁を祈念して新年のご挨拶とします。

協会では設立以来、水産種苗の生産・放流・供給事業に取り組み、神奈川県下の海を資源豊かにするために、色々な種苗を放流してきました。それはマダイ、クロダイ、ヒラメ、マコガレイ、カサゴ、メバル、トラフグ、カワハギといった魚類に加えアワビ、トコブシ、サザエなどの貝類という多彩な種苗放流です。▼この中で特に注目されているのがマダイです。かつて百万尾、今でも七十

万尾を超す種苗を放流して資源の維持に貢献し、神奈川県はマダイ種苗放流の「モデル県」といわれています。▼いずれの種苗放流も漁業者や遊漁船業者の収入向上を目指しています。が、それと同時に釣りを楽しむ人たちの喜びを満たすことができます。▼また、マダイ、ヒラメ、メバル、カサゴ、クロダイは小学生を主体に種苗放流に参加してもらい、水産資源の大切さを知ってもらう取り組みも続けています。

マダイは日本においては魚の王様です。姿、色、味はお祝いに相応しいことから、根強い人気のある魚です。
しかし、天然のマダイの幼稚仔が生育する沿岸のアマモ場や浅場が高度経済成長時代に埋め立て

により喪失し、その結果、マダイの漁獲量が激減しました。
神奈川県では、昭和四十八年から昭和六十一年度まで神奈川県水産試験場の、種苗量産技術開発を経て百万尾の種苗を生産できるようになり、本

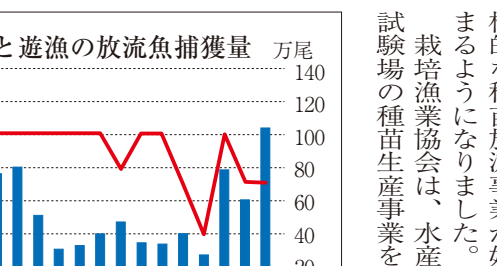
格的な種苗放流事業が始まるようになりました。
栽培漁業協会は、水産試験場の種苗生産事業を昭和六十二年度から引き継ぎ、七十万から百万尾の種苗を東京湾と相模湾に放流してきました。

カサゴ、メバル、カワハギ、アワビ、トコブシを漁業協同組合や水産関係団体、遊漁関係団体のご要望に沿って、種苗を放流、斡旋して、水産資源の増大に寄与していただきます。
種苗の放流で、漁業者・遊漁案内業者の経営が安定していくことを期待しています。

是非、漁業者、遊漁案内業者として多くの県民の皆様方で、栽培漁業が続いていけるよう、ご理解とご協力・ご支援をお願いいたします。
今年も皆様方のご健勝と大漁を祈念して新年のご挨拶とします。

協会では設立以来、水産種苗の生産・放流・供給事業に取り組み、神奈川県下の海を資源豊かにするために、色々な種苗を放流してきました。それはマダイ、クロダイ、ヒラメ、マコガレイ、カサゴ、メバル、トラフグ、カワハギといった魚類に加えアワビ、トコブシ、サザエなどの貝類という多彩な種苗放流です。▼この中で特に注目されているのがマダイです。かつて百万尾、今でも七十

万尾を超す種苗を放流して資源の維持に貢献し、神奈川県はマダイ種苗放流の「モデル県」といわれています。▼いずれの種苗放流も漁業者や遊漁船業者の収入向上を目指しています。が、それと同時に釣りを楽しむ人たちの喜びを満たすことができます。▼また、マダイ、ヒラメ、メバル、カサゴ、クロダイは小学生を主体に種苗放流に参加してもらい、水産資源の大切さを知ってもらう取り組みも続けています。



全国的にも全長六から八cmの種苗を継続して放流している県は多くありません。
昭和四十年代には神奈川県のみで、マダイの漁獲量は三十トン台になってしまいました。
昭和四十九年度から百万尾前後の種苗

を放流し始めて、年平均八十八万尾を放流して、漁業と遊漁を合わせて百万トンから百五十万トン、漁業で平均四十四トン、遊漁で七十八トン、種苗の回収率は、放流尾数に対して十・五から二・三%、平均五・三%であり、遊漁で年平均十六トン、漁業で九トンを回収しています。
今では、二十五トンのマダイの捕獲量(漁業+遊漁)は当たり前になっていますが、国や県の補助金がなくなると放流経費は受益者負担となつています。平成二十五年から平成二十九年度まで、東京湾へ一般社団法人日本釣用品工業会に二十万尾のマダイを購入していた

いて放流していましたが、この事業が縮小、或いはなくなることがあり、今後、五十万尾前後の放流数になる可能性があります。
これから、マダイ釣人協力金や釣船協力金、栽培漁業協会の種苗放流事業の範囲で事業を行っていく必要があります。
今まで、三浦市小網代湾で行ってきた中間育成をやめて、活魚運搬船で東京湾から相模湾への一括放流をしてきたものを陸上池で五cmから六cmに育て、トラック活魚車で運搬し、漁港へ直接放流することによって経費を削減できるか検討していきたいと考えています。

全国的においしさを運びます
タムラ運輸サービス株式会社
代表取締役 **田村 琢馬**
本社 〒239-0831
横須賀市久保浜一丁目10番1号
TEL 046-813-4100(代)
FAX 046-813-4155
■長井営業所
〒239-0316
横須賀市長井五丁目四七
TEL 046-815-7464
FAX 046-815-7464

公益財団法人
全国豊かな海づくり推進協会
会長 **岸 宏**
〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町九十六
小伝馬町松村ビル六階
TEL 03-5651-1350
FAX 03-5651-1350

環境保全と水産業の振興を
公益財団法人
相模湾水産振興事業団
理事長 **武井 正**
〒250-0021
小田原市早川一丁目一
TEL 0465-215989
FAX 0465-215514

東京湾遊漁船業協同組合
理事長 **飯島 正宏**
〒140-0002
東京都品川区東品川一丁目一
TEL 03-3477-7401
FAX 03-3458-6835

昨年の「ヒラメ」の種苗放流

東京湾・相模湾に二十六万尾

昨年は、東京湾から相模湾に平均全長六十三センチのヒラメ種苗を合計二十六万尾放流しました。

内訳は太平洋南区栽培漁業推進協議会と神奈川県栽培漁業協会の種苗放流事業で六万尾、種苗供給事業として公益財団法人相模湾水産振興事業団が六万尾、一般財団法人横須賀西部水産振興事業団が八千尾、漁業協同組合等が十三万二千二百尾でした。

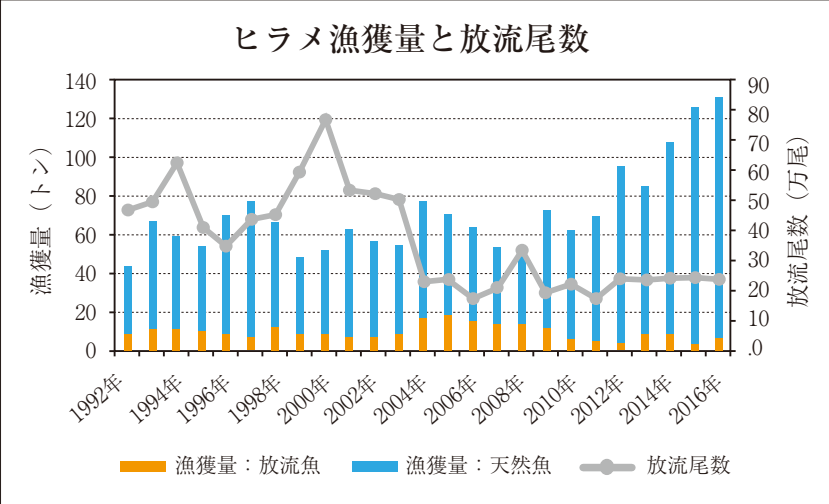
ヒラメの鰭の一部を切除了した標識魚を五百尾ずつ横須賀東部漁業協同組合と長井町漁業協同組合に放流しました(写真参照)。



鰭がカットされた標識放流魚



着底前のヒラメ
ふ化後30~35日後の仔魚



(水産技術センター山崎哲也氏提供)

漁獲量と放流尾数の関係は、水産技術センター

天然資源の増大の原因は分かりませんが、二〇一〇年以前の漁況に戻る可能性もあり、種苗放流と資源管理によって持続的に高位安定した漁獲量を期待したいものです。

相模湾シンポジウム開く

基調講演、話題提供、現場からの声

水産海洋学会、小田原市、相模湾水産振興事業団が共催する第四十一回「相模湾の環境保全と水産振興」シンポジウムは、雄事務局長は、神奈川県



雄事務局長 鈴木 啓

この後、武井正 公益財団法人相模湾水産振興事業団 理事長が「事業団が取り組んできた

「関係者の協働により、手を加えることで、きれいで、豊かで、持続可能な沿岸域の実現を」と基調講演を行いました。

「市民との環境再生の取り組み」、同県流域水道整備事務所の大橋幸雄部長・いであ(株)の榎慎一

「江の島カマス」や「相模の鮎」も、消費者ニーズに対応し、安全性と商品の特徴など、一定の品質が確保されていると登録

「走水あさり」



「走水あさり」は、餌のプランクトンが豊富な横須賀市走水地先の海で獲れる天然アサリです。ふつくらとした身が貝の中間に詰まっ

「走水あさり」は、餌のプランクトンが豊富な横須賀市走水地先の海で獲れる天然アサリです。ふつくらとした身が貝の中間に詰まっ

29年度「漁業者交流大会」

平成二十九年度神奈川県漁業者交流大会は一月十二日午後一時から、横浜市区小菅ヶ谷の「あーすばらぎ プラザホール」で開催されます。主催者挨拶に引き続き、青年漁業士一、指導漁業士二名の認定証書授与式が行われます。

あけましておめでとうございます 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

株式会社リビエラリゾート
シーボニアマリーナ
〒238-0225
三浦市三崎町小網代二二八六
TEL 〇四六八八二二二二

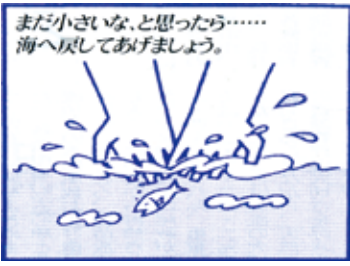
神奈川県しらす船曳網漁業
連絡協議会
会長 杉山 武
〒二五〇-〇八〇三
平塚市千石河原二八一三
TEL 〇四六三二二一〇一四六
FAX 〇四六三二二一五七二九

一般財団法人
東京湾南部水産振興事業団
理事長 小菅 君明
〒239-0831
神奈川県横須賀市久里浜八八九五
TEL 〇四六八三四一三五九六
FAX 〇四六八三四一三六九〇

一般社団法人
神奈川県漁業無線協会
会長理事 小山 泰弘
〒238-0232
三浦市晴海町一七
TEL 〇四六八八二二七八四

漁船漁業を守ります。
日本漁船保険組合
神奈川県支部
運営委員長 太田 謙
〒236-0051
横浜市金沢区富岡東二一〇二一
TEL 〇四五七七二一七三〇一
FAX 〇四五七七八一三九二〇

JF
JF神奈川県連
代表理事 高橋 征人
〒236-0051
横浜市金沢区富岡東二一〇二一
TEL 〇四五七七三六七七七



平成29年度 栽培普及啓発事業 各地のイベントで種苗放流

当協会は、神奈川県下の海を豊かにするため、主に子どもたちが種苗放流に参加する「栽培普及啓発事業」を実施しています。29年度はマダイ、ヒラメ、カサゴ、メバル、クロダイ種苗が放流されました。



メバル
◇日本釣振興会、全日本磯釣り連盟神奈川県支部が提供したメバル種苗千尾を地元小学生六十人が放流しました。

●メバル

◇七月十日、平塚市漁協、当協会が提供したヒラメ種苗を地元小学生百二十人が千尾、◇十三日、当協会、長井町漁協などが提供したヒラメ種苗千尾を地元の小学生六十人が放流しました。



カサゴ
◇九月五日、横須賀市西部水産振興事業団は、地元小学三、四年生八十七人が参加する「体験放流」を行いました。芦名漁港岸壁から千尾のカサゴ種苗を放流しました。

●カサゴ

◇七月三十日に行われた横須賀市・久里浜町内のお祭りの一環として、お神輿を担いだ子どもたち五十人が、千七百尾のマダイ種苗を放流しました。



クロダイ
◇九月十六日、横浜ベイサイドマリナーの「YBM海の学校」で、横浜市内の十八人の小学生などによるマダイ、クロダイ千尾の種苗放流が行われました。

●マダイ

◇九月十一日、NPO法人小網代パール海育隊は、三浦市内の小学校の生徒百三人を招待、クロダイ、マダイ合計二千五百尾の放流学習を実施しました。



●ヒラメ



●マダイ

サゴ種苗を放流しました。◇十日、横浜港埠頭(株)は本牧海釣り施設で、釣りを楽しんでいた人二百人に参加してもらい、千尾のカサゴ種苗を放流してもらいました。

●クロダイ

◇九月十一日、NPO法人小網代パール海育隊は、三浦市内の小学校の生徒百三人を招待、クロダイ、マダイ合計二千五百尾の放流学習を実施しました。

さいばい漁業つて何②③

公益財団法人
神奈川県栽培漁業協会
専務理事 今井 利為

マダイ②

マダイ栽培漁業の必要性について、幼稚仔が育つ時期に生活できなくなった生物の資源を回復するためには、人為的に資源(種苗)の添加を必要とあります。そこで、人工的に種苗を大量に生産し、それを適切な時期、場所、大きさで、放流するのが効果的であるか調査・研究が進められました。

マダイ漁業資源生態調査研究の歴史

マダイの場合、昭和四十七年度から昭和四十九年度まで基礎的なマダイの生態・資源・漁業の調査が行われ、栽培漁業展開の方向づけがなされました。続いて、昭和五十一年度(神奈川県栽培漁業センター)が完成し、マダイ種苗生産の体制づくりが行われました。

このことを受けて神奈川県、静岡県の両県で「放流技術開発調査」が始まり、翌五十五年度から「回遊性魚類共同放流実験調査事業」と改称し、昭和五十七年度から千葉県が加わり、昭和六十一年度まで大量の標識放流実験が行われました。昭和六十二年(千葉県)は引き続き同事業により、神奈川県、静岡県は指定法人

マダイ③

マダイ栽培漁業の必要性について、幼稚仔が育つ時期に生活できなくなった生物の資源を回復するためには、人為的に資源(種苗)の添加を必要とあります。そこで、人工的に種苗を大量に生産し、それを適切な時期、場所、大きさで、放流するのが効果的であるか調査・研究が進められました。

マダイの産卵

マダイは、桜が咲くころから産卵期に入ります。春、水温が十五度から十八度に上昇し始めると、産卵が始まります。天然マダイの産卵場は、マダイの漁場となります。春、水深百メートル

このことを受けて神奈川県、静岡県の両県で「放流技術開発調査」が始まり、翌五十五年度から「回遊性魚類共同放流実験調査事業」と改称し、昭和五十七年度から千葉県が加わり、昭和六十一年度まで大量の標識放流実験が行われました。昭和六十二年(千葉県)は引き続き同事業により、神奈川県、静岡県は指定法人

マダイの産卵

マダイは、桜が咲くころから産卵期に入ります。春、水温が十五度から十八度に上昇し始めると、産卵が始まります。天然マダイの産卵場は、マダイの漁場となります。春、水深百メートル

マダイの産卵

マダイは、桜が咲くころから産卵期に入ります。春、水温が十五度から十八度に上昇し始めると、産卵が始まります。天然マダイの産卵場は、マダイの漁場となります。春、水深百メートル

このことを受けて神奈川県、静岡県の両県で「放流技術開発調査」が始まり、翌五十五年度から「回遊性魚類共同放流実験調査事業」と改称し、昭和五十七年度から千葉県が加わり、昭和六十一年度まで大量の標識放流実験が行われました。昭和六十二年(千葉県)は引き続き同事業により、神奈川県、静岡県は指定法人

あけましておめでとうございます 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

有限会社 パル

代表取締役 菅野茂樹

〒238-0224
神奈川県三浦市三崎町諸磯1249
TEL 046-880-0757
FAX 050-3730-8101

焼肉食堂

げんこつや

※葉山牛カルビ 一、〇八〇円

店主 石坂幸央

〒240-0104
横須賀市芦名二丁目二二番三
TEL 046-857-1529
定休日：毎週火曜 第三水曜

(有)瀬戸信真センター

代表取締役社長 藤木治夫

〒720-0203
広島県福山市田尻町四二八九番地
TEL 084-956-1347
FAX 084-956-1347

クロレラ工業株式会社

生産本部技術特販部

〒833-0056
福岡県筑後市久富一三四三
TEL 094-252-1261
FAX 094-252-1261

土木・港湾・浚渫工事
石材採取販売・測量調査

株式会社 鈴木組

代表取締役 脇山 俊

〒259-0201
足柄下郡真鶴町真鶴九九五二
TEL 046-516-8155

神奈川下漁港めぐり・・・シリーズ③

第2種「長井漁港」

相模湾東部に位置する沿岸漁業の拠点



水揚げ拠点、長井魚市場

神奈川県横須賀市長井町にある第二種の「長井漁港」は、相模湾の東部に位置し、定置網や刺網、一本釣りなどの様々な漁船が入港する横須賀市では最大の漁港です。

長井漁港の整備の歴史は古く、漁港本港は昭和七年に基本施設、防波堤、物揚場、船揚場を造るために起工され、昭和九年に竣工しました。その後、昭和三十年に漁港整備計画が立ち上げられ、その対象港として承認され、昭和三十三年に第二次漁港整備計画に着手、以来、長井漁港は整備が重ねられてきました。



すかなごっそ「さかな館」

同港には長井町漁協地方卸売市場があり、秋から冬にかけてヒラメ、ブリ類、カマス、カワハギ、カサゴ、タコ、サザエなどが水揚げされます。また、十一月下旬からはトラフグも水揚げされています。

これらの新鮮な鮮魚などは、月一回開催されている「長井の朝市」で生産者直販されます。また、JAの直売所「すかなごっそ」の同漁協直営の「さかな館」では、定休の水曜日以外は毎日、朝獲れ鮮魚、干物、海藻類だけでなく地魚握り寿司、たこ飯まで販売し消費者に喜ばれています。

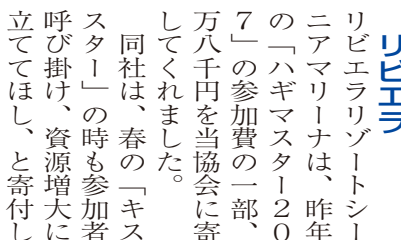


活魚のカワハギなどを選別

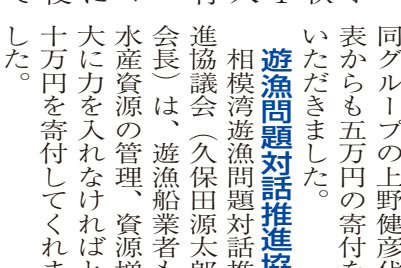


ハギマスター参加者から寄付

わが国の最大手の釣り具メーカー「シモノ」から今年度も「マダイ資源の維持・増大に役立てて」と、百万円の寄付をいただきました。同社は、平成十三年度から寄付を続けていただいております。今年度までの寄付の総額は千九百九十万円に達しています。



当協会は、神奈川の海を豊かにするため、種苗放流に力を入れています。今年度も資源増大に役立ててとシモノ、リビエラリゾートシーボニア、エラリアリゾートシーボニア、皆様のご支援に応え、水産種苗の放流に全力を尽くします。



リビエラリゾートシーボニアは、昨秋の「ハギマスター2017」の参加費の一部、八万八千円を当協会に寄付してくれました。

同社は、春の「キスマスター」の時も参加者に呼び掛け、資源増大に役立ててほしい、と寄付していただきました。

あけましておめでとうございます 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

Brine Shrimp EGGS-90

株式会社 北村

〒604-0051 京都市中京区二条油小路町291
TEL 075-221-6695

売上の一部が放流事業に寄付される自販機設置にご協力ください。

サントリービバレッジサービス株式会社

TEL 045-573-6366
FAX 045-573-2858

午後の紅茶®

資源増大に役立ててとシモノ、リビエラリゾート・トヨタグループ 相模湾遊漁問題対話推進協からも寄付

当協会は、神奈川の海を豊かにするため、種苗放流に力を入れています。今年度も資源増大に役立ててとシモノ、リビエラリゾートシーボニア、エラリアリゾートシーボニア、皆様のご支援に応え、水産種苗の放流に全力を尽くします。

シモノ

わが国の最大手の釣り具メーカー「シモノ」から今年度も「マダイ資源の維持・増大に役立てて」と、百万円の寄付をいただきました。同社は、平成十三年度から寄付を続けていただいております。今年度までの寄付の総額は千九百九十万円に達しています。

リビエラ

リビエラリゾートシーボニアは、昨秋の「ハギマスター2017」の参加費の一部、八万八千円を当協会に寄付してくれました。

同社は、春の「キスマスター」の時も参加者に呼び掛け、資源増大に役立ててほしい、と寄付していただきました。

トヨタグループ

KTグループの神奈川トヨタ商事は、釣り大会などを開催する機会が増え、そのためには水産資源の維持・増大が大切、だと今年度も十万円を寄付してくれました。また、同グループの上野健彦代表からも五万円の寄付をいただきました。

遊漁問題対話推進協
相模湾遊漁問題対話推進協議会(久保田源太郎会長)は、遊漁業者も水産資源の管理、資源増大に力を入れなければと十万円を寄付してくれました。

JICA研修生が来会

栽培漁業・放流効果など研修

独立行政法人国際協力機構横浜国際センターでは、開発途上の経済・社会開発の必要な人材を育成するため、研修生を受け入れる事業を行っています。

今回の研修生は、西アフリカのカメルーン、コモロ、ギニア、モリタニア、モロッコの七名であり、各国政府の漁業関係部署の課長クラスの人でした。

研修内容は、神奈川県人口、GDP、漁業者人口、漁獲量、漁業実態などを説明し、さらに、栽培漁業の基本的な考え方、神奈川県栽培漁業の実態、放流効果などを

普及啓発事業の一つとして 水槽で稚魚・稚貝展示

お話ししました。また、十二月十四日に横浜国際センターにおいて、二ヶ月間にわたって、見を日本の講師が述べて、全国の様々な水産施設、水産関係機関を訪問した結果を踏まえて、研修生がそれぞれの国に帰って行くアクションプランを公表し、それに対する意見を日本の講師が述べて、各国の水産振興に役立ててもらおうようにしています。

当協会は、栽培漁業の大切さを広く知ってもらおうと普及啓発を事業の柱にしていますが、その一つが協会で生産している活きた種苗の水槽による展示です。

昨年八月に開催された「小田原みなとまつり」では、マダイ、クロダイ、マコガレイ、ヒラメの稚魚とアワビ、トコブシ、サザエの稚貝を展示しました。

特に、小さな子どもたちは、泳ぎ回る稚魚に興味津々といった表情で、「かわいい」と目を輝かせていました。

また展示ブースには、「栽培募金箱」を置いていましたが、子どもたちも次々に募金してくれました。

その事業の一環として、「漁業コミュニケーション」にて、研修生がそれぞれの国に帰って行くアクションプランを公表し、それに対する意見を日本の講師が述べて、全国の様々な水産施設、水産関係機関を訪問した結果を踏まえて、研修生がそれぞれの国に帰って行くアクションプランを公表し、それに対する意見を日本の講師が述べて、各国の水産振興に役立ててもらおうようにしています。